

## ドム(メサイア戦役後)

### 概要

メサイア戦役の後、ザクシリーズやグフイグナイト等の『ニューミレニアムシリーズ』がほぼ一掃されていたことに加え、デュランダル派の排除によって、プラントの量産型モビルスーツはドムシリーズに固定された。

その後、C.E.75年にインフィニットジャスティスの量産型であるΩインフィニティと、ストライクフリーダムの量産型であるΔフリーダムが就役する。しかし、これらが当時の量産機としては高額だったことから、発足したばかりのプラント国防軍はドムシリーズの生産も継続、ハイ・ロー・ミックスでの展開となった。

実際のところは、ラクス・クラインの世界再々構築によって国防軍の予算が地上軍に優先された為、慢性的予算不足に悩まされる宇宙軍が主にドムシリーズを使用した。ドムには単独飛行能力もない為、目的としては理にかなっていた結果になる。

しかし、ジオンの核融合モビルスーツに対してはまったく無力とあってよく、目立った戦果はなく、パイロットの質の低下もあり、ほぼ一方的に駆逐されている。

### ドム・トルーパー(C.E.75型)

プラント国防軍発足後、量産ラインに乗ったドム・トルーパー。形式号 ZGMF-MA09。試作型に装備されていたスクリーミングニンバスをオミットし、コストを低減している。

C.E.79年の時点ではほとんどが第一線を退いており、治安部隊、警備部隊などの二線級の任務にのみ残されていた。

### ドム・ハイマニューバ

C.E.77年に登場した大規模モデファイ機。形式号 ZGMF-209C/ED。構成を見直して完成品としては1世代分進めたとされている。また、ウィザード側にデュートリオン受電装置を装備し、必要のないときはオミットして軽量化、あるいはモビルスーツ本体のコスト減を実現するイージーデュートリオンを採用している。

スクリーミングニンバスの復活も考慮されたが、宇宙軍の予算難の状況から見送られている。

### アクト・ドム(核融合動力実験機・量産計画機)

形式号 ZGMF-209F。シーゲルⅡ式核融合炉ジェネレーターパック搭載の試作モビルスーツとして、ドム・ハイマニューバの部品を用いて組み上げられた。負荷実験も兼ねて、高機動化とスクリーミングニンバスの復活が行われている。

作中でヘルベルトが登場していたのは量産計画用の試作機で、スラスター、バーニアの配置を最適化して、実用機としての性能を持たせたもの。しかし絶対的な性能はパクファープに劣り、核融合動力の利点を完全に活かしているとは言えなかった為、量産はされずに終わる。

### アクト・ドム(急造機)

『新月の決戦』の敗北後、核融合動力モビルスーツの大量生産に迫られたプラントが、ドム・ハイマニューバの部品を用いて急遽生産した機体。先述の計画機と異なり、ハイマニューバの部品の安全係数を削ることで、核融合動力による性能向上を果たさせている。しかし無茶な設計に粗製濫造がたたり本来の性能を発揮できるものは全体の2割と言われ、中には自爆してしまったものもある。

# Ωインフィニティ

## 概要

インフィニットジャスティスを母体にした、近接戦闘用の量産機。核分裂エンジンの採用は見送られたが、デュートリオン電送システムを採用、装甲はラミネート装甲とすることで、C.E.75年の段階では実用機として抜きん出た性能を確保した。

高機動、高運動性が売りだったが、ジオン独立戦争においては、ジオンの核融合動力モビルスーツに格闘戦での対抗はほぼ不可能だった(ただし、それは本機の性能によるところよりも、戦術の稚拙さによるところが大きいと言われる)。しかし、ファトゥムによるトリッキーな攻撃は、ジオンに良く犠牲を強いた。

オペレーション・エッジの段階でほとんどの機体は失われていて、その後、第一線に出る事はなかった。

## 仕様

全高:18.9m 本体重量:39.8t 全備重量:55t

動力:強化バッテリー+デュートリオン電送システム

装甲:対ビームラミネート装甲

## 固有武装

**MIF-M19M 近接防御システム/14mmショートリコイル機銃(×2)**

インフィニットジャスティスに搭載されているものと同等の近接防御機銃。

**F&T-GAU/L24 近接防御システム(CIWS)/24mm 多条集束レーザーバルカン**

胸部の近接防御システムには、サジトゥス系に代えて、トーマス・シティが開発したレーザーバルカンを採用。

**MA-M1911M 『ルプスII』 ビームライフル**

インフィニットジャスティスと同等のものだが、1基のみの搭載で、連結機構は廃されている。

**MIF-715 『カーテナ』 ビームコーティングサーベル**

『アロンダイト』を小型化し、格闘戦に使いやすくした実体剣。トリッキーで搭乗者の技能を要するラケルタに変わり、採用された。

**MX2102 ビームシールドジェネレーター内蔵シールド**

ビームシールドジェネレーターのエネルギー消費効率を改善し、バッテリー機での運用を容易にしている。ビームブーメランを格納する。

**RQM155 『サンダーエッジ』 ビームブーメラン**

『シャイニングエッジ』の出力分布やアイドルパターンを見直したエネルギー消費効率改善型。同様にMX2102シールドと組み合わせて使用する。

## ファトゥム-M02

Ωインフィニティ用のファトゥム。形状はインフィニットジャスティスのファトゥム-01に近いが、装備内容は初代ジャスティスのファトゥム-00の物を継承している。地上での戦闘ではこれを有効に使いジオン軍に打撃を与えている。自前の動力用に別にバッテリーパックを持つ。

**FM-4C 『フォルティス』 ビーム砲**

初代ジャスティスのファトゥムが装備していた物の省電力化バージョンで、バッテリー機に合わせ

て出力を最適化している。

#### **M9M11 『ケルルス』 75mmガトリングライフル旋回機関砲塔**

メインスラスタ上部に装備された、防御用の旋回機関砲塔。

#### **MIF-GAU27E 31mmショートリコイル機関砲**

メインスラスタとフォルティスビーム砲の間に設置された機関砲で、対空攻撃の際に使用される。

#### **バリエーション**

**ZGMF-219D Ωインフィニティ(Omega Infinity)**

## △フリーダム

### 概要

ストライクフリーダムを母体にした、近接戦闘用の量産機。核分裂エンジンの採用は見送られたが、デュートリオン電送システムを採用、装甲はラミネート装甲とすることで、C.E.75年の段階では実用機として抜きん出た性能を確保した。なお、ドラグーンは装備していない。

C.E.75当時のバッテリー機としては比較的高機動を持っていたが、どちらかと言うと火力支援機として位置付けられた。地上軍は制圧射撃に用い、ジオン公国軍に少なからずダメージを与えている。

また、ZAFT大統領武装親衛隊の装備機としても知られている。

Ωインフィニティと異なりガン・カビナンター配備開始後も比較的数量が残っており、宇宙軍で対艦攻撃機として用いられた。

### 仕様

全高:18.9m 本体重量:40.5t 全備重量(軽装):56t

動力:強化バッテリー+デュートリオン電送システム

装甲:対ビームラミネート装甲

### 固有武装

#### F&T-GAU/L48 近接防御システム(CIWS)/48mm多条集束レーザーバルカン

トーマス・シティで開発された技術の産物で、実体弾の近接防御機関砲に代えて採用された。

#### MA-M1911M 『ルプスII』 ビームライフル

ストライクフリーダムと同等のものだが、1基のみの搭載で、連結機構は廃されている。

#### MIF-715 『カーテナ』 ビームコーティングサーベル

『アロンダイト』を小型化し、格闘戦に使いやすくした実体剣。トリッキーで搭乗者の技能を要するラケルタに変わり、採用された。

#### MGB-1223 圧縮高荷電ビーム砲(腹部)

カリドゥスの代わりに装備されたビーム砲で、粒子への荷電量を増し、一般的なビーム砲より威力を増大させている。

#### MIF-F77 固定ビーム銃(×4、両肩)

オミットされたドラグーンの変わりに搭載された物で、制圧射撃時に用いる他、小口径なので精密な射撃も可能となっている。

#### FMI-15G 『クスフィアスVI』 短銃身レールガン

ストライクフリーダムのクスフィアス III よりも短銃身化し、消費電力の低減を図ったもの。威力もやや落ちる。

#### MX2351A 『ソリディウス・フルゴール』 ビームシールドジェネレーター

両腕に装備されたビームシールドジェネレーター。ストライクフリーダムの物の出力分布やアイドルパターンを見直したエネルギー消費効率改善型。しかしジオンは実体剣の『グラディウス』レーザーヒートソードを多用した為、これに悩まされる結果になる。

### バリエーション

ZGMF-220D △フリーダム(Delta Freedom)

# ギャン・カビナンター

## 概要

ドムシリーズの後継機として開発されていた機体で、厳密に言えば『ネクスト・ニューミレニアムシリーズ』の1機種に含まれる。

インフィニットジャスティス並みの高機動機として開発されていたが、その能力を満たしうる動力源が核エンジン以外に用意できず、コストの難点から事実上開発中止状態に置かれていた。しかし、ジオン機として完成したゲルググシリーズの高性能を目の当たりにし、急遽、核分裂エンジンを搭載、量産機としてはコスト度外視で性能を向上させ、制式化されることとなった。

期待の新型機として送り出され、当初、その期待に見合うだけの働きをした。しかし、そもそもの高コスト体質の上、ジオン側の機体が同時期にはさらに一世代進んだことなど、悪い条件が重なって、徐々に不利を強いられるようになっていった。不運な機体ともいえる。

外観イメージは『ジオンの系譜』のギャンB型に近い。

## 仕様

全高:19.5m 本体重量:75t 全備重量(軽装):90t

動力:核分裂炉ジェネレーターコンポーネント

装甲:VPS 装甲

バックパックシステム:ウィザードシステム

## 固有武装

**FMI-GAU25C近接防御システム(CIWS)/20mmガトリングライフル**

ドム・トルーパー装備の物を改修した近接防御システムで、頭部に搭載される。

**MX3312 ビームシールドジェネレーター内蔵アンチビームバックラー**

**M261A 『ヒルドールヴ』シールド内蔵3連装長射程ビームガン**

MX3312 は小型の実体シールドの付いたビームシールドジェネレーター。ヒルドールヴはその下に格納されている。“長射程”はベースになった(グフ・イグナイテッドの)ドラウプニルに比して。

**G14B アドバンスドスクリーミングニンバス**

ドム・トルーパー(C.E.73 型)以来本格的に復活したスクリーミングニンバス。核エンジンを前提とした攻性ビーム攪乱幕。

**M71-AAA 『ランゲ・アーマーシュナイダー』対装甲アキナス**

ストライクに由来する『アーマーシュナイダー』を名乗るが、実際にはインパルスのフォールディングレイザーの後継に当たる。ナイフよりもやや刀身の長い『アキナス』。

## バリエーション

**ZGMF-314A ギャン・カビナンター(GYAN COVENANTER)**

# パクファープ

## 概要

ガン・カビナンターをベースに、核融合動力化を図り、さらなる高機動化を実現した機体。しかしながら、量産に必要な時間を取ることが出来ず、結局 40 機に満たない数が終戦に間に合っただけで、その全ては ZAFT 大統領武装親衛隊に配備されていた。

頭部の形状が変更され、ジンに近い形状の物が搭載されている。

名称は Paladin which Keeps Freedom And Absolute Peace(自由と絶対の平和を守る聖騎士)の意。当初は『ガルバルディ』という機体名称が予定されていたが、キラとラクス意見により変更された。

## 仕様

全高:18.8m 本体重量:68t 全備重量(軽装):78t

動力:シーゲル II 式常温核融合励起型熱核融合炉ジェネレーターコンポーネント

装甲:APS(Advanced Phase Shift)装甲

バックパックシステム:ウィザードシステム

## 固有武装

FMI-GAU25C近接防御システム(CIWS)/20mmガトリングライフル

M261A 『ヒルドールヴ』シールド内蔵3連装長射程ビームガン

G17 アドバンスドスクリーミングニンバス

M71-AAA 『ランゲ・アーマーシュナイダー』対装甲アキナス

以上は、ガン・カビナンターのものをほぼそのまま、あるいは小改良を行って継承している。

MX3316 アンチビームバックラー

MX3317 ビームシールドジェネレーター内蔵アンチビームシールド

パクファープでは本格的な VPS 装甲シールドを搭載することとなり、既存の小型シールドは残されたものの、ビームシールドジェネレーターがオミットされている。小型シールドの下には、ガン・カビナンター同様、ヒルドールヴを格納している。

## バリエーション

ZGMF-317F/X パクファープ(PAKFAAP)

## 番外

### スニアーツ

ゲーンのデザインをベースに、水中での直線移動速度と、静粛性を確保した隠密行動用の水陸両用モビルスーツ。形式名は **UMF-Y104LD**。